海賊戦隊ゴーカイジャー　StrikerSで派手に行くぜ

sena

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
海賊戦隊ゴーカイジャー　ＳｔｒｉｋｅｒＳで派手に行くぜ

【Ｎコード】
Ｎ５１０３Ｙ

【作者名】
ｓｅｎａ

【あらすじ】
３４のスーパー戦隊の力を受け継いだ３５番目のスーパー戦隊その名も
海賊戦隊ゴーカイジャー、今日も宇宙最大のお宝求めそれを邪魔するザンギャックをブッ飛ばすある日突然光に包まれたゴーカイジャー達、なぜか
異世界ミッドチルダに飛ばされていたしかし今このミッドチルダにある脅威が迫っていた。海賊と魔道師の豪快タッグがここに誕生、派手に行くぜ！！

プロロ〜グ！！（前書き）

ではご覧ください

プロロ〜グ！！

かつて地球の平和と人々の愛と夢と笑顔を守り続けた戦士達が存在した

その名は「スーパー戦隊」

数十年前、多くの星々を侵略と征服そして破壊してきた宇宙帝国ザンギャックの間の手が地球にまで
　やってきたのであった、それを向かい打つ歴代の３４のスーパー戦隊。

しかし栄光の戦士達も劣勢をしいられてしまった、地上のザンギャックの兵士達のスゴーミンとゴーミン
　をすべて倒したのはいいが空には大艦隊がスーパー戦隊に一斉攻撃を仕掛けてきたのだ。

「このままではやられる」と思った初代スーパー戦隊「ゴレンジャー」のリーダーアカレンジャーはある
　作戦に賭けた、アカレンジャーを中心にスーパー戦隊全員が集合した。

アカレンジャー「皆！、スーパー戦隊すべての力を結集して地球を守るんだ！！」

全スーパー戦隊「おう！！、ロジャー！！、了解！！」

掛け声と共にスーパー戦隊達の体が光始めそのまま空中あがった

そして光は塊となった

アカレンジャー「ファイヤー！！！」

アカレンジャーの掛け声と共に光の塊は飛び散ってそのままザンギャックの大艦隊を一気に破壊した。

こうして地球の未来は守られた、だが・・・スーパー戦隊の戦士達は戦う力を失ってしまった

そしてこの戦いが世に言う”レジェンド大戦”と呼ばれる戦いとして地球に語り続けられるのであった。

しかし悪夢は再び現れた、新たに戦力を整えてザンギャックが再び現れたのだ。

だが失われた３４の戦隊の力を受け継いだのはトンデモナイ奴等だった。

宇宙最大のお宝求めて地球にやってきた若者たち、ザンギャックに反旗を翻し「海賊」と言う汚名を

誇りとして名乗る豪快なヤツら　その名は・・・

「「「「「「海賊戦隊！！ゴーカイジャー！！！」」」」」」

そしてここは地球とは違う世界、異世界「ミッドチルダ」。魔法文化が発達した世界である。

その魔法を使って多くの次元世界を管理する時空管理局が存在するミッドチルダ・首都クラナガン

ここはミッドチルダの中心である近未来的な大都市・首都クラナ

ガンである。

ドッガーーーーン！！

突然街で爆発が起きた。
　すぐに管理局の陸戦魔道師達が駆けつけた

魔道師Ａ「一体何が原因なんだこの爆発は」

すると

魔道師Ｂ「な・・なんだあれは！！」

魔道師Ｂがある物体を指差して全員がそれを見た

ナナシ連中「ナー！！ナナナナ！」

ビービ「ビー！！！ビビビビビ！」

ゾルダー「ホイ！！ホイホイホイ！」

そこにはかつて「シンケンジャー」に倒された「外道衆」の戦闘員
ナナシ連中さらに「ゴセイジャー」が
　倒した「救世主のブラジラ」の戦闘員ビービーと「ゴレンジャー」
に倒された黒十字軍の戦闘員ゾルダー
　であった、歴代のスーパー戦隊に倒された悪の組織の戦闘員達が
なぜこのミッドチルダに？
　魔道師Ｃ「お、おおおおいこっちに向かって襲ってくぞ！！」

歴代戦闘員達が陸戦魔道師達に襲って掛かって来た

魔道師Ａ「怯むなこいつらが爆発の犯人だ！！、撃て！！」

魔道師Ａの掛け声で全員がデバイスを構えて射撃魔法を撃った　・・・しかし

魔道師Ｄ「全然怯まないぞ！！」

魔道師Ａ「非殺傷設定では無理か、全員殺傷設定に切り替えろ」

陸戦魔道師部隊はデバイスの設定を殺傷設定に切り替えて歴代戦闘員に攻撃した

数時間後、何とか撃退したが多くの魔道師達が命を落とした。

？？？？？

？？？「これが時空管理局、弱すぎるスーパー戦隊の方がまだ上だ」

その戦闘をモニターで見ていた人物

？？？「だが待っているがよいスーパー戦隊！！かならず戻り再び・・・」

復讐してやる！！、ヌハハハハハ！！！！

つづく

プロロ～グ！！（後書き）

頭の妄想で書きました

第1話「宇宙海賊、異世界に！！」（前書き）

なんか戦闘シーンが難しいです。

第1話「宇宙海賊、異世界に！！」

地球・ゴーカイガレオン
ここは地球、街の端に碇を下ろして停泊している空飛ぶ赤い船この船こそ
ゴーカイジャーの拠点であるゴーカイガレオンである。

マーベラス「ハラ減ったな・・」

とぼやくて船長の座る椅子に座る男、彼こそこの船の船長であるゴーカイレッドこと
キャプテン・マーベラスである

ジョー「確かに」
クールなもの静かな男はゴーカイブルーことジョー・ギブケンである

ハカセ「もうお昼だからね」

ルカ「じゃあさ、お昼は外で食べない？」

気が強そうな女性はゴーカイイエローごとルカ・ミルフィ

それとなんか気が弱そうな男はゴーカイグリーンごとドン・ドッゴイヤーである、
メカニック担当でもあるためメンバーからは「ハカセ」と呼ばれている。

アイム「たまにはそれもいいですね」
おっとりしている彼女はゴーカイピンクごとアイム・ド・ファミーユ、これでも元お姫様である

鎧「いいですね！ワルズ・ギルを倒したお祝いとして行きましょう！！」
ちょっと暑苦しいこの男はゴーカイシルバーごと伊狩鎧である、他の5人と違って地球人である
そして「誰よりもスーパー戦隊を愛する男」と自称しているが本当にスーパー戦隊が大好きな男である。

ゴーカイジャー達はついこの間、ザンギャックの司令官でる皇帝のバカ息子のワルズ・ギルを見事倒したのであった。

マーベラス「それもいいな、じゃあ早速地球に着いて食い損なったアノ店のカレー・・・」

ナビィ「あーーーー！！、感じちゃった！！感じちゃった！！」

このうるさいオウム型ロボはナビィである。

マーベラス「うるさいな鳥」

ナビィ「鳥て言うな！」

ルカ「もしかしてまさかお宝！？」

ナビィ「イエス～！！、じゃレッツお宝ナビゲート～！！」

するとナビィは飛びまわり始めてそして・・・

ゴン！！

ナビィ「んがっ！！」

天井にぶつかった

ナビィ「そなた達～、突然変な光が現れてスゴイことがおこるぞよ～・・・こんなん出ました！」

これはナビィのお宝ナビゲート機能である、これで宇宙最大のお宝の在り処を示す３４の戦隊の内の

当てはまる戦隊に会いそしてその戦隊が持つ「大いなる力」の手がかりでもある

アイム「変な光？ですか？」

ジョー「鎧、それは何戦隊だ？」

鎧「俺も初めて聞く言葉ですよ、光・・太陽かなそれだとサンバルカンかな・・」

鎧が悩んでいるその時

ビィービィー！！

突然ガレオンに警報がなった

ルカ「何！？ザンギャック！？」

マーベラス「一体なんだ、おい！ハカセ！！」

マーベラスはハカセに問う

ハカセ「このガレオンにすごいエネルギーが広がってるよ～！！」

ハカセもかなりびっくりしていた

すると6人のいる場所に突然光あられそして

ジョー「なんだ、この光は・・！！」

ルカ「まさかこれナビィの言ってた・・・！！」

ハカセ「変な光！？・・！！」

アイム「まぶし過ぎます・・！！」

鎧「何だ！？この光は・・！！」

ナビィ「のへ～・・・！！」

マーベラス「お前ら・・・！！」

その光は6人を飲み込むとゴーカイガレオンも飲み込んでそして

・・・・・

光が消えるとゴーカイガレオンが消えてしまっていた

ミッドチルダ・廃棄都市区画

マーベラス「・・・・んっ、ここは何処だ？」

目が覚めたマーベラス周りを見ていた

マーベラス「おかしい確かガレオンに居たはずの俺がなんでこんな廃棄街に入るんだ？」
首を傾げるマーベラス、自分は仲間達とガレオンにいってその後突然変な光に包まれ
そしてここにいった

マーベラス「アイツらもいないし、とりあえずガレオンは呼べるか？」

マーベラスはモバイレーツを取り出した、その時！！

ドッカン！、ドッカン！！

マーベラスの足下の前が爆発した

マーベラス「なんだ！？」

マーベラスが前を見ると、変なカプセルなメカが現れた。
これはガジェットドローンと呼ばれるメカである

マーベラス「ザンギャックじゃなさそうだな、だが・・」

気に入らないものは、ブッ潰す！！　それが海賊だ

マーベラスは右手にレンジャーキーを持ち、左にモバイレーツを持ち
レンジャーキーが鍵の形に変形するとそれを前に突き刺しそして
マーベラス「豪快チェンジ！！」

レンジャーキーをモバイレーツの真ん中の鍵穴に指し回すと上のところが「鍵と交差した2本のカットラス」
に変形すると

モバイレーツ「ゴーカイジャーーーー！！！」

音声とが発声されると「V」と「X」と「X」があらわれてまず一つ目の「X」がマーベラスに向かうと
マーベラスの胸に「鍵と交差した2本のカットラス」が付いて2つ目の「V」がマーベラスに向かうと
船長を思わせるスーツへ変わり最後に「V」頭に向かうと船長の帽子のようなマスクを装着。

ゴーカイレッド「ゴーカイレッド！！」

名乗り終わるとゴーカイレッドは右手にゴーカイサーベルと呼ばれる剣と左手にゴーカイガンと
呼ばれる銃を持ち

ゴーカイレッド「派手にいくぜ！！」

キメ台詞を言うとゴーカイガンでガジャットを3体を撃て撃破する、
そのまま残りガジャットに
向かっていった

ゴーカイレッド「ハッ！！、オラッ！！」

サーベルで切り裂いてく、後ろから撃つガジャットを後ろを向かず
にゴーカイガンを放った

残りのガジェットは4体

ゴーカイレッド「とどめだ！！」

すると自分のレンジャーキーをゴーカイサーベルのシリンダーの鍵
穴にセットしてシリンダーを倒すと

ゴーカイサーベル「ファァァイナルウェェェェブ！！」

ゴーカイレッド「ゴーカイサーベル！！、オラッ！！」

ゴーカイサーベルを振るうと光の刃を飛だすと見事にガジャットに命中してガジェットは完全に破壊

ゴーカイレッド「フッ！、ザンギャックよりはラクだぜ」

すると

女性の声「あのーすいません！」

そこに女性の声がした

ゴーカイレッド「あっ！？」

ゴーカイレッドは周りを見たが誰もいなかった

女性の声「こっちです、上です上！」

ゴーカイレッド（上だ！？）

上て建物の屋上か？と思って上を見るとそこには茶色の髪の女性とその隣には金髪の女性が空中に浮んでいた

ゴーカイレッド（マジかよ!?、人が空飛んでいやがる・・・・）

まだゴーカイレッドは気づいていない自分が「異世界」に居ることにそして、
彼女達もこの男がトンデモないヤツとはまだ知る由もなかった。

つづく

第1話「宇宙海賊、異世界に！！」（後書き）

どうか最後まで読んでください

第2話「海賊と魔道師！！」

数分前

ミッドチルダ・廃棄都市区画の空中

なのは「未確認の反応はこの先だよフェイトちゃん」

空を飛ぶ茶色の髪の女性は高町なのは、時空管理局の魔道師であり「エース・オブ・エース」の異名を持つ。

フェイト「うん、でも反応のあった先に生体反応とガジャットの反応があるなんてそれに・・」

その隣を飛ぶ金髪の女性はフェイト・T・ハラオウンなのは幼なじみで同期である、
この若さで執務官である。

彼女達はこの破棄都市区画に未確認の反応を調査のために向かっていた、
しかし反応先にガジャットの反応もあると同時に奇怪な現象を見る。

フェイト「ガジェットの反応がどんどん消滅してるなんて、誰かがガジェット戦ってるの？」

現場つくまでにガジェット反応が次々と消滅してついに現場に到着

なのは「フェイトちゃん！、あれを見て！」

フェイト「！！」

二人が見たのは赤い変な人物がガジェットを破壊していてそして

ゴーカイレッド「ゴーカイサーベル！！、オラッ！！」

ドッガーーーーーン！！

完全に破壊した瞬間であった

なのは「す・・すごい、ガジェットを簡単に倒すなんて」

フェイト「うん、とりあえずあの人に事情を聞いてみよなのは」

そして現在

ゴーカイレッド（マジかよ!?、人が空飛んでいやがる・・・・）

ゴーカイレッド困惑していた

フェイト「私達、時空管理局の者です事情を聞きたいんでバリアジャケットを解除してくだい」

ゴーカイレッド「バリアジャケット?、これのことか!!」

なのは「はい、すぐに解除してください」

ゴーカイレッド（どうすっかな・・・）

すると

グゥ〜〜〜〜〜〜!!

なのは&フェイト「「！？」」

二人は謎の音にびっくりした

ゴーカイレッド「ワリィ、俺の腹の虫だメシ食わしてくれるならあんた達について行くぜ」

二人は念話で話した

なのは＜さっきのあの人お腹の音だったんだ・・・（汗）＞

フェイト＜そうだね、とりあずついて行く言ってるし一旦降りよう＞

なのは「わかりました今降ります」

二人が降りたときにゴーカイレッドは変身を解除してマーベラスに戻った

なのは&フェイト「「っ！？」」

無論二人はビックリ

マーベラス「？、どうした？」

なのは「いえ！ちよっとビックリしただけです」

フェイト「とりあえず場所も場所なんで移動しましょう」

マーベラス「ついでなんだか、こいつも一緒にいいか？」

なのは&フェイト「「！？」」

二人の頭に？が浮んだ

マーベラスはモバイレーツを出し「５５０１」と番号を押して真ん中のボタン押した

モバイレーツ「ゴーカイガレオン！！」

すると空からゴーカイガレオンがやってきた

フェイト（えっ！？！？、何・・あれ！！！？？？）

なのは（嘘！！？？・・・空飛ぶ船！？！？）

なのはとフェイトはゴーカイガレオンを見てさっきよりかなりビックリしていた

だが、この先もっとビックリするトンデモない光景がまっていることはまだ知る由もなかった。

つづく

第3話「機動六課！！」

ミッドチルダ・機動六課
ここは時空管理局の機動六課、正式名称は古代遺物管理部機動六課
主な任務はロストロギア関連の
危険な任務やレリックの回収などが任務である

六課の通路歩くなのはとフェイトそして後ろにマーベラスと後ナビィ
ちなみにナビィはガレオンの中で気絶（？）していてた

なのは＜フェイトちゃん、あの人この世界（ミッド）の人じゃないと思うよ＞
フェイト＜私も思ってた、さっきの姿バリアジャケットでも騎士甲
冑だもないし＞

二人はマーベラスのあの姿をみてこう予想した彼は次元漂流者では
ないかと
そう念話で話してる内にドアについてノックした

女性の声「どうぞ」
中から女性の声がした

なのは「失礼します、高町なのは一等空尉、任務の報告にまいりま
した。」

なのは達が入るとそこにはなのはと同じ色の髪をして髪止めをつけている女性がいた
彼女は八神はやて、なのはとフェイト昔からの仲でありこの若さで機動六課の部隊長である

はやて「ごくろうさん、そっちが二人の報告にあった人やな」

マーベラス（こいつがあの二人のリーダーか！？、俺と変わらない年じゃねいか！）

マーベラスはビックリした二人の上司だからどんなヤツかと思ったら二人と同じ女で
自分と変わらない年でビックリ

はやて「始めまして、私はこの機動六課の部隊長の八神はやてと言います」

フェイト「私はフェイト・T・ハラオウン執務管です」

二人が自己紹介した後

マーベラス「俺はキャプテン・マーベラスだ外に止めてある船の船長だ」

ナビィ「オイラはナビィだよ」

一人と一匹（？）が自己紹介した、ちなみにゴーカイガレオンは本部隊舎の隣の水上で停泊している。

はやて「（あのオウム型ロボット、なのはちゃんに声似っとんな）でマーベラスさんはあの船と一緒にあそこに行ったんですか？」

マーベラス「仲間達とメシ食いに行こうとしてたら、突然船に変な光が現れて気がついてたら
あそこに居て変なメカに襲われて逆に返り討ちにしてやったぜ」

マーベラスははやて達にすべてを話した

はやて「なるほど～・・あと二人が言って「海賊見たいなバリアジャケット」はなんですか」

マーベラス「見たいなじゃね！それに俺は正真正銘の海賊だ！」

そう言うとモバイレーツと自分のレンジャーキー見せるて説明する
はやてもモバイレーツが自分達のデバイス見たいな物と認識する

はやて「なるほどねマーベラスさんあなたは、恐らく次元漂流者だと思われます」

マーベラス「次元漂流者？なんだそれ？」

はやて「なんらかの理由で別の世界に飛ばされた人のことを次元漂流者です」

マーベラス「なるほどな」

マーベラスはあまり驚かないそれもそのはず、前に元ゴーオンレッドの江角走輔と共に
ゴーオンジャーが倒したガイアークの残党に支配された世界「ガンマンワールド」や
ゴーオンジャーの相棒の「炎神」が住む世界「マシンワールド」行ったことがあるからだ。

フェイト「マーベラスさん？分かってますか！？」

マーベラス「あ・・要するに迷子みたなもんだろ？」

はやて（その迷子がスケールがデカイやけどな～）

はやては突っ込んだ

はやて「あとマーベラスさんの居た世界の名前はとあと本当に海賊なん？」

マーベラス「本当に海賊だ！！、後居てる世界は地球だ」

はやて「地球て！！うちの故郷と同じやけど後居てる？」

マーベラス「「宇宙最大のお宝」を探してそれが地球にあるからきた・・」

宇宙海賊だ！！

はやて「宇宙海賊！！、マーベラスさんは宇宙人なん！？あと「宇宙最大のお宝」て！！！」

はやてはかなり興奮していた

マーベラス「落ち着け！、お前の故郷の地球と俺が居る地球と同じとは限らねぇだろ」

はやて「いらいすいまへん・・しかしマーベラスさんが宇宙人とは想像してたとは
違うな」

フェイト「あとマーベラスさんの居てる地球とあと特徴的なキーワードはありますか？」

マーベラス「そうだな、じゃあ「スーパー戦隊」て調べておいてれ」

フェイト「「スーパー戦隊」！？、わかりました調べておきます」

マーベラス「さっきからまだメシ食ってないんだ早くメシ食わせろ」

はやて「そうやったな、食堂に案内するは」

機動六課・食堂

食堂に着くとマーベラスの豪快な食べっぷりにはやてもびっくり

はやて（この食いっぷりホンマもんの海賊や・・・（汗））

マーベラス「フー、食った食った」

はやて「マーベラスさん、マーベラスさんのあつかいなんやけど「民間協力者」とするやけど」

マーベラス「民間協力者?!」

マーベラスの頭の?がうかんだ

はやて「じつはマーベラスの船とあの力、本局に知らせたらまずいことになるんや」

はやてが言うにはもしそれがしれたら管理局の元で一生働き二度と元の世界に帰れないと言うことである

マーベラス「ふざけんな！！、俺には「宇宙最大のお宝」を見つけるて夢があるんだぞ！！」

マーベラスは激怒した

はやて「そこでうちら機動六課に協力してもらえば元の世界が見つかれば
その必要もなくなります、実はうちら六課は人手不足なんや」

マーベラス「まぁいいかお宝探しの息抜き変わりに協力してやるぜ」

はやて「ホンマ、でもテストは受けてもらいます」

マーベラス「テスト〜！？」

マーベラスの顔がイヤそうになった

はやて「大丈夫、頭のテストじゃなくてまぁ模擬戦闘見たなもんやから大丈夫や」

マーベラス「なんだそうか、俺の得意分野だそれに食後の運動にはちょうどいいぜ」

はやて「じゃ訓練施設に案内するで、ついてきてな」

この後訓練施設で六課は目にするこの男の豪快な戦闘を目にする

さらにトンデモない光景も目にすることは知る由もなかった

つづく

第3話「機動六課！！」（後書き）

じ～かい！！歴代戦隊に豪快チェンジします、たぶん・・

第４話「対決!!、海賊ＶＳ騎士!!」（前書き）

今回は歴代戦隊に豪快チェンジします。

第４話「対決！！、海賊ＶＳ騎士！！」

機動六課・訓練施設

マーベラスは、はやての案内で訓練施設に着いたその行く道中に手のひらサイズ人形が飛んできた

マーベラスは「なんだ！？この空飛ぶ人形は？」言うと「む～、リインは人形じゃありません」

この小っいのははやての家族の一人リインフォース？である。

ナビィ「なんかオイラとポジション被ってない！？」

まあそれはおいといて、すると

なのは「あっ、はやてちゃんどうしたの？」

なのはが話にきた

はやて「なのはちゃん、訓練終わった？実はこれからこの人のテストを使用と思うやけどええかな？」

なのは「さっきの人だね」

なのははマーベラスに顔をむけた、もちろんマーベラスもなのはに顔をむけた

なのは「まだ自己紹介まだだったね、始めまして高町なのは一等空尉です」

マーベラス「キャプテン・マーベラスだ」

二人は自己紹介をしたするとなのはの後ろに居た少女二人と子供二人が自己紹介をした
この四人は機動六課の新人達で前線を担当するのフォワード部隊である

スバル「スバル・ナカジマです、よろしくお願いします！！」

ティアナ「ティアナ・ランスターです、今後よろしくおねがいします」

エリオ「エリオ・モンディアルです、よろしくお願いします」

キャロ「キャロ・ル・ルシエです、そしてこの子はフリードリヒですよろしくお願いします」

フリード「キュクルー」

するとマーベラスはフリードに駆け寄った

マーベラス「おいまさかドラゴンか？」

キャロ「あ・・はい私が育ててきました」

マーベラス「すげな～」

ドラゴンなんてどこの星々行ってもいるはずもない全宇宙共通の空想の生物だから
マーベラスはフリードに注目

そこに

紫色の髪の女性「主はやて、ここにいたんですか」

赤毛の子供「どこに行ったのか探したぜ」

マーベラス「（主！？）誰だお前ら？」

赤毛の子供「お前こそ誰だよ！！、偉そうな態度しやがって」

すると二人はにらみあった、このマーベラスといがみ合ってる赤毛の子供はヴィータ
はやての家族の一人でヴォルケンリッターの一人で「鉄槌の騎士」の異名を持つ

ちなみに外見は子供みたいだが一様子供のの年齢は超えているで大人である

それと紫色の髪をしたポニーテールの女性のはシグナム彼女もはやての家族の一人で
ヴォルケンリッターの一人で「烈火の将」である。

次にシグナムがマーベラスを睨んでマーベラスもヴィータからシグナムの方に顔を向けて睨みかしった

マーベラス＆シグナム（（この女（男）できる！！））

すると

はやて「二人共睨みあったらあかんって、これからこの人の民間協力者になるテストをするんやで」

ヴィータ「なーんだ、そっか」

マーベラス「おい、こいつら一体なんなんだ？」

はやて「この二人はシグナムとヴィータやうちの家族なんやで」

マーベラス「そっか、俺はキャプテン・マーベラスだ」

ヴィータ「キャプテン・マーベラス！？変な名前だな・・」

はやて「こらこらヴィータ、マーベラスさんは宇宙海賊であの赤い船の船長やで」

シグナム&ヴィータ「「？？」」

二人ははやてが指をさした場所を見た

シグナム&ヴィータ「「！！！！！！！」」

二人はゴーカイガレオンを見てビックリ！！

シグナム「・・・・ではお前は本当に宇宙海賊で・・・」

ヴィータ「本物の宇宙人なのか！！、あたしは宇宙人と言ったらタコみたいな姿だとおもってた！！」

マーベラス「へんな決まり付けんな！！」

はやて（ウチも同じ考えやった・・・）

なのは（私もヴィータちゃんと同じ考えだった・・・）

まあそれが正論だろ・・

マーベラスは廃墟の真ん中についたじつはこれホログラム、この訓練施設は色々な場所に対応して
訓練ができる施設しかもこのホログラム本物そっくりの感触が再現されている、もちろん
マーベラスも「これはスゲーな・・」とビックリ

なのは「はやてちゃんなんで、マーベラスさんテストなんかうけるの？」

なのはが質問した

はやて「色々あるんやけど、一様マーベラスさんも生き抜き程度のもんで民間協力者に
なってくれるわけや」

ティアナ「色々て・・まさか次元漂流者ですかあの人」

はやて「まあそうやけど、それにマーベラスさんはウチらがもってな力をもってるんや」

フォワード「「「「「！？」」」」」

そして

はやて「じゃあ、マーベラスさん準備できてますか？」

マーベラス「準備万端だ！」

マーベラスはモバイレーツとレンジャーキー取り出す

ティアナ「あれがマーベラスさんのデバイス？」

スバル「人形みたいなものも持ってるよ」

ティアナはモバイレーツを深く見ていた、それとスバルはレンジャーキーを見ていた

するとレンジャーキーが鍵に変形した

スバル「人形が鍵になっちゃた！？」

そして

マーベラス「豪快チェンジ！！」

モバイレーツ「ゴーカイジャー！！！」

レンジャーキーをモバイレーツの鍵穴に挿し回すとマーベラスはゴーカイレッドに変身した

スバル「あれ・・・バリアジャケットなの？」

キャロ「もっていた鍵になった人形と同じ姿に・・」

エリオ「本当に海賊ですね・・」

スバル、キャロ、エリオはゴーカイレッドの姿を見て驚いた

シグナム「これは面白そうだな・・」

シグナムは少し微笑んだ

はやて「じゃあテストをはじめるで、内容はターゲットを15機破壊できたら合格や」

ブーーーーー！！

ブザーが鳴るとゴーカイレッドの前に数機のガジェットが現れた

ゴーカイレッド（さっき倒したメカと同じか）

するとゴーカイレッドはゴーカイサーベルとゴーカイガン取り出し

ゴーカイレッド「派手にいくぜ！！！」

そう言うとガジェットに突っ込んだ

しかしガジェットからビームが発射して爆炎が起きる

ヴィータ「おいおい、あっというまに失格かよ」

と思ったその時

ゴーカイレッド「ハッ！！」

ゴーカイレッドが飛び出てきてゴーカイガンで数発をガジェットに打ち込んで破壊した

そのあとガジェットの群れに着地するとゴーカイサーベルでガジェット数機を切り裂いて破壊した

フェイト「テスト始まった？」

フェイトがマーベラスが言っていたことが調べ終わり戻ってきた

はやて「・・・・」

はやては言葉をなくしていた

フェイト「どうしたのはやて？・・・！？！？！」

フェイトが訓練施設をみて驚愕した

ゴーカイレッド「ハッ！！、オラッ！！それっ！！」

ゴーカイレッドはゴーカイサーベルで次々とがジェットを破壊して、
ガジャットがビームを発射すると
それをサーベルで全部弾き返してゴーカイガンで撃ち破壊していた
サーベル以外には近づいてきた
ガジェットを蹴り倒しそのまま切り裂いたり撃ったりしていてかな
りの数のガジェットを破壊してきた。

スバル「す・・すごい・・！！」

ティアナ「めちゃくちゃだけど・・・！！」

エリオ「強いです・・・！！」

キャロ「なんてスゴイ人・・・・！！」

４人は唖然していた

なのは「豪快な戦い方だけど本当に・・・強い」

フェイト「私となのは見たのは最後のあたりだったけど・・・・」

ヴィータ「言葉どうり本当に・・・・！！」

はやて「派手に行っとるな・・・・！！」

なのは達も呆然していた

しかし一人とてもうずうずしていた人物がいた

シグナム「主はやて」

はやて「・・・！！、なんやシグナム！？」

シグナム「実は折り入ってお願いがしたいのですが」

ヴィータ「オメェ・・・まさか！！」

そのころゴーカイレッドは

ゴーカイレッド「残り４機か、一気にかたずけるか！！」

するとゴーカイレッドのレンジャキーをゴーカイガンのシリンダーの鍵穴にセットして
シリンダーを倒した

ゴーカイガン「ファァァァイナルウェェェェブ！！！」

ゴーカイレッド「ゴーカイブラスト！！」

ゴーカイガンから光の弾丸が放たれて４機のガジェットに直撃した

ドガーーーン！！

ゴーカイレッド「へっ、！！ラクだぜ」

すると

まだ！！終わりではないぞ！！！

声の方にレッドが振り向くとそこには

なのは「シグナムさん！！」

そこには騎士甲冑を装着していたシグナムがたっていた、実はシグナムは無類のバトルマニアである！！

ゴーカイレッド「シグナムだったか、どう言う訳だ！？」

シグナム「まだ私とうゆうターゲットがいるだろ、それとももうバテた訳ではないだろ」

ゴーカイ「冗談言うな、これでもやっと体が暖まったんだいいぜ、もう一発派手にいくぜ！！」

するとゴーカイレッドとシグナムはお互いに突っ込んできた

「「ハッ！！」」

ゴーカイサーベルとシグナムのデバイス「レヴァンティン」ぶつかりあっつた。

ゴーカイレッドはシグナムの攻撃を受け流したり避けたりする、サーベルで反撃したり
ゴーカイガンで攻撃したりする、シグナムもゴーカイレッドの攻撃を避けたり受け流したり
「レヴァンティン」を振るって攻撃するゴーカイガンの遠距離攻撃には防御魔法でガード
お互い譲りあわない攻防をしている

エリオ「あのシグナム副体長と互角で渡りあってる・・・！！」

キャロ「すごい！！」

そして

シグナム「中々やるなだが、この一撃はどうだ！！」

シグナムは空中に飛び、「レヴァンティン」を鞘に戻すと「レヴァンティン」の一部から動き薬莢が飛ぶ
そして鞘から抜くと「レヴァンティン」の刃が連結剣に変化してそして

シグナム「飛竜・・・一閃！！」

ゴーカイレッド「何！？」

連結剣の一撃をかわすゴーカイレッドだがその衝撃で吹っ飛ばされる

ゴーカイレッド「うわー！！」

シグナム「どうしたもう終わりか？」

シグナムが問いかける

ゴーカイレッド「冗談言うな、そんな取っておきがあるとはなだったら俺の取っておきを見せてやるぜ！！」

ゴーカイレッドはゴーカイバックルか新たなレンジャーキーを取り出しモバイレーツを出した

はやて「あれはさっきと鍵やな」

フェイト「でもさっきと形が違う」

そして

ゴーカイレッド「豪快チェンジ！！」
新たなレンジャーキーをモバイレーツに差し込む

モバイレーツ「シンケンジャー！！」

ゴーカイレッドは３３番目のスーパー戦隊「侍戦隊シンケンジャー」
の「シンケンレッド」に変身した

フォワード４人「「「「「姿が変わった！？」」」」」

フォワード４人はビックり

なのは「あの鍵の形の姿に変身しちゃった！？」

はやて「なんなんや、あれは」

フェイト「・・・・・」

ヴィータ「・・・・・！！」

シグナム「その鍵は姿を変える力があるのか！」

シンケンレッド（ゴーカイR）「海賊版だがな」

するとシンケンレッド（ゴーカイR）は「シンケンジャー」の共通武器「シンケンマル」を腰から抜き
すでに黒いディスクがセットされていてそれを回すと「シンケンマル」が巨大な剣シンケンレッド
専用武器「烈火大斬刀」になりそれを肩に乗せた。

シグナム「なんと！！だがそれで怖気ずく私ではない！！」

すぐにシグナムは「飛竜一閃」をくりだしたそれがシンケンレッド（ゴーカイR）に向かってきた
しかしシンケンレッド（ゴーカイR）が一回りし炎をまとった「烈火大斬刀」をまるで野球のスイング
見たいに振り連結剣とぶつかった。

シンケンレッド（ゴーカイR）「くらえ！！百火繚乱！！」

連結剣が弾かれて元の剣に戻った「レヴァンティン」になった

シグナム「あの一撃を弾き返すとは・・！」

シンケンレッド（ゴーカイR）「次はこれだ！、豪快チェンジ！！」

モバイレーツ「ジェットマン！！」

シンケンレッド（ゴーカイR）は15番目のスーパー戦隊「鳥人戦隊ジェットマン」
のレッドホークに変身した

なのは「また変わった！？」

ヴィータ「一体何個持ってんだあの鍵を！！」

さー何個かな？

シグナム「今度はその姿でどんな攻撃をするんだ？」

レッドホーク（ゴーカイR）「こうすんだよ！」

レッドホーク（ゴーカイR）は走りだすと上腕をあげると背中から

上腕にかけて翼が出てきて
空を飛び空中のいるシグナムのところに飛んでいった

フェイト「空を飛んだ！？」

はやて「今度のは飛べる力があるんか」

シグナム「何！？」
予想もしていなことにシグナムは驚いた

レッドホーク（ゴーカイR）「これで条件は同じだ、オラッ！！」

レッドホーク（ゴーカイR）は「ジェットマン」の共通武器「ブリンガーソード」でシグナムに
切りかかるだがそれを「レヴァンティン」で受け止めたそれから剣と剣の打ち合い始めた
するとレッドホーク（ゴーカイR）はさらに高く飛ぶ

シグナム「逃げる気か！？」

追うとして上をみると

シグナム「！？！？」

レッドホーク（ゴーカイR）が太陽に重なってシグナムの目にさいぎった

レッドホーク（ゴーカイR）「オラッ！！」

そのまま急降下しながらシグナムの腹にキックを入れて地面に直撃させた

ドッガーーーーン

シグナム「・・・姿を変えた多彩な攻撃、面白い！！」

レッドホーク（ゴーカイR）「次はこいつだ！！、豪快チェンジ！！」

モバイレーツ「ギンガマン！！」

レッドホーク（ゴーカイR）は22番目のスーパー戦隊「星獣戦隊ギンガマン」の
ギンガレッドに変身

はやて「もうなにが出ようともおどろかへんで！！」

シグナム&ギンガレッド（ゴーカイR）「「ハァァァァ！！」」

「レヴァンティン」と「ギンガマン」の共通武器「星獣剣」がぶつかり合うそしてまた打ち合いが
始まった、するとギンガレッド（ゴーカイR）が後ろに飛んで距離をとると

ギンガレッド（ゴーカイR）「くらえ！！、炎のたてがみ！！」

合わせた両手から炎を放った

シグナム「っ！、レヴァンティン！！」
そう叫ぶとシグナムの体が紫のオーラがに包まれて「炎のたてがみ」
弾いた

ギンガレッド（ゴーカイR）「お前やるな、最高だぜ」

シグナム「お前こそ中々やる、だが・・・・！」

ギンガレッド（ゴーカイR）&シグナム「「次で決める！！」」

すると「レヴァンティン」の一部から動き薬莢が飛ぶすると「レヴァンティン」の
刃が炎を纏った、「星獣剣」の刃が赤く光そして

シグナム「紫電・・・一閃！！」

ギンガレッド（ゴーカイR）「炎一閃！！」

「紫電一閃」と「炎一閃」ぶつかった

ギンガレッド（ゴーカイR）&シグナム「「はあああああっ！！」」

そして

ドッーーーーカン！！！

二人が居た場所が爆発した

フェイト「爆発した！！」

ヴィータ「この勝負・・」

なのは「一体・・」

はやて「どっちの勝ちや・・・・!?」

そして煙が晴れてきた

マーベラス&シグナム「「はっ・・はっはっ」」

そこには変身が解除され膝を着き息を切らしてるマーベラスと、騎士甲冑がボロボロになり
息を切らして膝を着くシグナムが居た。

マーベラス「テメェやるじゃねいか・・・気入ったぜ!」

シグナム「お前こそこの私と互角に戦えるとはすばらしいぞ」

すると二人はそのまま倒れこんだ

はやて「この勝負・・・引き分けやな」

フォワード「「「「シグナム副隊長と引きかけた！？」」」」

フォワード４人は驚愕した

そして二人は医務室に運ばれた。

つづく

第４話「対決！！、海賊ＶＳ騎士！！」（後書き）

どうでしたか？自分なりに書きました

第5話「伝説と初出動！！」

機動六課・医務室

さっきの戦闘でマーベラスとシグナムは倒れてここに運ばれた

マーベラス「う～・・ここはどこだ？」
マーベラスが目が覚める

シャマル「目が覚めたんですね」

声をかける女性、彼女は名はシャマル機動六課の医務官でありはやての家族の一人であり
ヴォルケンリッターの一人であり「風の癒し手」の異名を持つ

マーベラス「あんたは？」

シャマル「私はシャマルここで医者をやってます、後はやてちゃんがマーベラスさんにこれを」

シャマルはマーベラスにカードを渡した

マーベラス「なんだこれ？」

シャマル「民間協力者としての証です」

マーベラス「合格てわけか」

シャマル「あとフェイトさんがロビーでまってますよ」

マーベラス「フェイト？ああ、アイツかありがとな」

するとマーベラスは医務室をでた

シャマル「まったくシグナムも無茶しすぎよ始めて会う人に勝負するなんて」

マーベラスが寝ていたベットの隣のベットにはシグナムが居た、シグナムはマーベラスより
早く目が覚めていた

シグナム「すまない、あの男の戦いを見ていたら居ても見てもたま

らなかったんでついな」

シャマル「あまりはやてちゃんに心配かけないでね」

シグナム「わかっている」

機動六課・モニタールーム

モニタールームには、はやてと眼鏡を掛けた女性が居た彼女は名は「シャリオ・フィニーノ」
通称「シャーリー」と呼ばれている、彼女は六課もロングアーチの通信主任でデバイスの製作とメンテナンスなどのメカニックであり「デバイスマスター」の資格を持っている

はやて「どうシャーリー、マーベラスさんに魔力反応はあった？」

シャーリー「はい、はやて部隊長あの人からは魔力反応はぜんぜんありません。けどこの戦闘で計測の結果」

シャーリーはゴーカイレッドの戦闘を魔力ランクであらわした結果を報告した

シャーリー「まずターゲットを最後に破壊した攻撃にはＡＡ＋に相当する威力です！」

はやて「あの攻撃でＡＡ＋！？」

シャーリー「最後に三番に変身した姿の攻撃ですが・・」

シャーリーはゴーカイレッドがギンガレッドになって炎一閃を放ったことを話す

シャーリー「・・・Ｓ＋です！！」

はやて「あれでＳ＋！？！？、こんな本局しれたらやばいなんとかしてマーベラスさんを守らな！！」

たしかにこんなこと知れればマーベラスは一生管理局で働かさせるかもしれないはやては思った
シャーリーは「恐らく自分の世界でかなり戦いをしてきたと思われる」言った

そのころロビーではマーベラスとフェイトそしてなのはが居た、マーベラスが言った「スーパー戦隊」
と言うキーワードの検索結果を見てた

マーベラス「やっぱねぇか・・」

フェイト「気を落とさないでください、マーベラスさんの世界は必ず見つけますよ」

なのは「そうですよあきらめちゃダメですよ」

マーベラス「・・フッ心配すんな、落ち込んじゃえねえよ」

なのは「そうですか、よかった」

マーベラス「お前らが見つけられなかったら、自分で探す」

フェイト「でもどうやって？」

マーベラス「俺は海賊だ、・・・」

欲しい物は見つけてこの手で掴み取るそれが、海賊てもんだ！

フェイト「この手で掴み取る・・・」

なのは「すごいねマーベラスさん・・」

フェイト「そうだマーベラスさん、「スーパー戦隊」てなんですか？」

なのは「私も気になってた何なんですか？」

そこえ

はやて「なのはちゃんにフェイトちゃんそれにマーベラスさん」

はやてがきた

なのは「あ、はやてちゃん」

マーベラス「ちょうどいいぜお前もついてこいはやて！」

はやて「えっ？何？」

フェイト「マーベラスさんが「スーパー戦隊」について教えてくれんるんだ」

はやて「ホンマ、実はウチも気になってたんやその「スーパー戦隊」に」

ゴーカイガレオン

なのは達はゴーカイガレオンの船内にいる

なのは「スゴーイ！」

フェイト「本当だね、なのは」

はやて「結構エエ所やな～！」

マーベラス「俺の船だからな」

そしてなのは達に「スーパー戦隊」について話した

フェイト「地球を守り続けた伝説のヒーロー・・！」

なのは「私達の世界の地球には普通だけど、マーベラスさんの居る世界の地球は常に危機に晒されていたですね・・」

はやて「漫画だけの話かと思ってたけど、実際あるんやなそんなこと」

マーベラス「俺の仲間にスーパー戦隊に詳しい地球人がいるぜ俺よりスゲー詳しいぜ」

はやて「そういえばマーベラスさんは仲間の人たちとここに飛ばされたんやったな」

マーベラス「俺がこの手で探してやる、それが海賊だ」

はやて「かっこええこと言うな～、そうやマーベラスさんあの鍵について」

はやてはレンジャーキーについて問う

マーベラス「お前言ってるのはこれのことか？」

マーベラスは横にある宝箱を開けた、その中には色とりどりのレンジャーキーが大量に
入っていった

はやて「うわーいっぱい入っとるな」

なのは「すごーい」

フェイト「色々あるね」

マーベラス「これは「レンジャーキー」俺達が宇宙で集めたモンでスーパー戦隊の失った力らしい」

なのは「失った力・・？」

話はこうだマーベラスの世界の宇宙では「宇宙帝国ザンギャック」
と帝国が多くの星々を
侵略そして征服していていた、自分達が地球来る前の数十年前、ザンギャックが地球に

侵略の手を伸ばしたいただがスーパー戦隊がそれを阻止して地球を守ったしかしそれと
同じにスーパー戦隊達は力を失いその力が宇宙に散ったと言う

はやて「でもまたザンギャックが地球にやってきた、そしてマーベラスさん達が探す
「宇宙最大のお宝」が偶然地球にあったんやな」

マーベラス「あいつらが勝手に俺らのじゃまするから戦ってるんだよ」

なのは「たとえ力を失っても」

フェイト「地球を守りたかったんだね、スーパー戦隊の人達も」

はやて「ええ話やな・・・」

それから数週間後

ゴーカイガレオン

マーベラス「クソッ、モバイレーツの位置情報が見付けれねえ！」

パネルを操作して仲間達の位置を探っているマーベラスしかし、位置情報がつかめない

マーベラス「壊れてるのか？だったら早いところハカセを見つけねえと、それに・・あのメガネ女
には触らせたらメンドくさくなるからな」

実はこの前シャーリーがモバイレーツとレンジャーキーを調べたいと言ってきた
シャーリーは調べたくてたまらなかった、だがマーベラスは「ふざけんな！、こっちにも色々あるから
無理だ！！」と拒否、シャーリーはしょんぼりと退散したが心の中ではまだ諦めてはないと思う

マーベラス「ちっ、気晴らしに隊舎の方に行ってみるか」

機動六課・デバイスルーム前

マーベラスは廊下を歩いてたらデバイスルームの扉の前に止まった

マーベラス「この部屋、なんだっけ？」

扉を開けるとそこにはなのはとスバル達とシャーリーが居た

なのは「あっ、マーベラスさんどうしたんですかこんなところに」

マーベラス「気晴らしに隊舎の中をうろついてただけだ」

スバル「うろついてたて・・・（汗）」

ティアナ「気晴らしですか・・」

エリオ「そういえば、マーベラスさんの仲間の皆さん見付かりましたか？」

マーベラス「位置情報がまったく出ねえんだ」

シャーリー「でしたら私が・・」

マーベラス「却下だ！」

シャーリー「ええ～、そんな・・」

キャロ「あの・・仲間の皆さん達大丈夫ですかね！？」

キャロが心配した

マーベラス「心配すんなキャロ、俺の仲間達はそんなところでのたれ死んでるほど
やわじゃねえよ、ところでお前らここで何してんだ？」

シャーリー「実はスバル達の新デバイスの説明をしているんですよ」

マーベラス「デバイス？」

なのは「私達、魔道師が魔法を使用の補助として用いる装置です、
私やフェイトちゃんやはやてちゃんの
のデバイスには人格があります」

マーベラス「おもしれな」

シャーリーの話によるとスバル達のデバイスにはそれぞれ何段階に出力リミッターが掛けており
そして各自が今の出力を制御できたらなのはやフェイト達が判断して解除していく、簡単に言えば
一緒にレベルアップするものでもある

ティアナ「出力リミッターと言えば、なのはさん達にも掛かってますね」

なのは「あぁ、私達はデバイスだけじゃなく本人にもでけどね」

フォワード「「「「!?!?!?」」」」

マーベラス「どう言うわけだ?、わけがわかんねぞ」

シャーリー「各部隊の魔道師ランクの総計規模は限られています、簡単に言えばなのは隊長やフェイト隊長
それにシグナム副隊長やヴィータ副隊長にも掛かっています。」

リイン「それにはやてちゃんにもです」

マーベラス「それじゃシグナムのヤツ、俺との勝負の時手抜いてたのか！！」

リイン「手を抜いてたわじゃないんですけど・・・」

マーベラス「海賊相手に手抜くとはいい度胸してやがる、今度リミッターなしで勝負して勝ってやるぜ！！」

全員（本気で言ってるのこの人！！！）

その時

ブゥーーン　ブゥーーン

アラートがなった

スバル「このアラートて・・・」

エリオ「一級警戒態勢！？」

なのは「グリフィスくん！！」

グリフィス『はい！、協会本部から出動要請です』

はやて『なのは隊長！！フェイト隊長！！グリフィスくん！！、こちらはやて！」

はやてから通信が来た

フェイト「状況は！？」

フェイトは車の中から通信を聞いていた

はやてによると教会騎士団の調査部が追っていたレリックらしき物が見つかったりしく

しかしそのレリックはリニアの中につまれていてしかもガジェット
によってリニアの
制御が奪われてしまたのだ

はやて「いきなりハードな初出動やなのはちゃん！！フェイトちゃん、そしてマーベラスさん行けるな！？」

フェイト「私はいつでも！」

なのは「私も！！」

マーベラス「言われるまでもないぜ！！気に入らねえ物は、ブっ潰す！！」

それが海賊てもんだ！！

はやて「それじゃ・・・」

機動六課フォワード部隊・・・出動！！！

なのは達「はい！！！」

マーベラス「おう！！」

派手にいくぜ！！！

つづく

第5話「伝説と初出動！！」（後書き）

じ～かい！！、ゴーカイジャーの仲間達がでます。

第６話「貨物列車での再会！！」

上空・ヘリ

機動六課は現在、「レリック」を積んだリニアの上空に六課のヘリが到着
この出動が機動六課の初出動でありフォワードの４人にとって初任務である、
そして民間協力者であるマーベラスのデビュー戦でもある
ヘリの中ではフォワード達はリインから作戦内容を聞いていた、そしてマーベラスは・・・

マーベラス「ＺＺＺＺ・・・」

この場の空気を派手に壊す用に寝ていた

リイン「マーベラスさん！！、寝てる場合じゃないですよ！！」

リインに怒鳴られて起きた

マーベラス「悪い、落ち着いてたら寝ていたぜ」

この男には「緊張」と言う言葉があるのか！？とヘリの中のメンバーは思った

リイン「も～！、さっきの作戦内容を聞いてましたか？」

マーベラス「寝てから知るわけねえだろ！」

逆ギレ

ティアナ＜自分が悪いのに逆ギレ？！＞

スバル＜それが海賊だと思うよ？ティア＞

リイン「もう一度言いますよ、マーベラスさんにはガジェットの破壊を担当してもらいます
　レリックの回収はスターズとライトニングがします。」

マーベラス「でっお前は？」

リイン「私も現場に下りて管制を担当します」

マーベラス「わかった任せとけ！」

それからフォワード達は先に降下したそしてマーベラスも

マーベラス「豪快チェンジ！」

モバイレーツ「ゴーカイジャー！！」

豪快チェンジしながら降下しそしてリニアに着地

ゴーカイレッド「なんだ！？お前ら派手な格好してるんだ？」

ゴーカイレッドの言うフォワード達の「派手な格好」と新しいバリアジャケットである

ゴーカイレッド「フッ、それがお前らの新しい「力」か似合ってるじぇねいか！」

ゴーカイレッドが言うと

スバル「そうですか！？へへ～！」

スバルがにやけた

ティアナ「スバル！感激は後、マーベラスさんも褒めるのも後！」

すると下からビームが発射されたガジェットの攻撃である

ゴーカイレッド「あいつらも派手にやるな！、こっちも・・・」

派手にいくぜ！！！

するとゴーカイレッドは「ゴーカイガン」で下に大穴を空けてリニ

アに中に突入

ゴーカイレッド「ハッ！！、オラオラ！！、おりゃ！！」

ゴーカイサーベルで次々とガジェットを破壊して

ゴーカイ「・・どけえ！」

ゴーカイガンで容赦なく撃て破壊する

そしてゴーカイレッドはエリオとキャロがいる近くの車両に居た、
しかしエリオがリニアから
落ちてさらにエリオを助けようとキャロもリニアから飛び降りた

ゴーカイレッド「エリオ！！キャロ！！」

ゴーカイレッドが声を上げた

ゴーカイレッド「まってろ今助けるぞ！！」

その時

はやて『待い！！』

ロングアーチからはやてから通信がきた

ゴーカイレッド「なんで！！あいつ等このままじゃ死ぬぞ！！」

なのは『大丈夫だよマーベラスさん！』

空中で飛行型ガジャットを殲滅してるなのはから通信がきた

ゴーカイレッド「どう言うことだ！？」

なのは「来るよフルパフォーマンスの魔法が！！」

なのはが言うとキャロとエリオが光に包まれてそして光が消えると巨大な竜が二人を乗せて飛んでいた

ゴーカイレッド「なんじゃありゃ！？」

はやて『ビックリしたマーベラスさん、あれがキャロの「レアスキル」や』

ゴーカイレッド「アイツだけの隠し玉か、てっかあの巨大なドラゴンはなんだ！？」

はやて『あれがフリードの本当の姿や』

ゴーカイレッド「あのフリードの・・・中々派手なことするなココはあいつ等にまかせて
俺もこのまま派手に行くぜ！！」

それからエリオ達が新型ガジェットを撃破してスバル達がレリック
を無事確保しリニアの
コントロール取り戻しリニアが停止した

ゴーカイレッド「これでラストだ！！」

ゴーカイレッドがサーベルで最後のガジェットを破壊した
その後スバルとティアナと合流した

ゴーカイレッド「お前らお宝は？」

スバル「お宝てっ（汗）、無事確保しました」

ティアナ（さすが海賊ね（汗）・・・・）

ゴーカイレッド「よし！そんじゃとっとと帰るか」

とその場離れようとしたその時！

ナナシ連中「ナー！！！」

スバル「え・・！？何こいつら！？！？」

ティアナ「どっから現れたの！？

リイン「ひえええ！！顔が口だから怖いです！！」

なんと現れたのは「シンケンジャー」が倒した「外道衆」の「ナナシ連中」である

ゴーカイレッド「なんだお前ら！？どけえ！！」

ゴーカイレッドはナナシ連中にサーベルで切り裂き始めた

機動六課・ロングアーチ

シャーリー「スターズFにの所に突然未確認生命体が現れました！！！」

はやて「なんやって！！」

リニア内

ゴーカイレッド「お前ら早く逃げろ！！、こいつらの目的はそのお宝かもしんねえぞ！！」

スバル「でもどうしてそんなこと言えるんですか？！」

ゴーカイレッド「海賊のカンだ！」

ティアナ「でもマーベラスさんを一人で戦わせるわけには！」

ゴーカイレッド「なに言ってんだ！！、お前らバテバテだろ」

そう実はスバル達にはかなり魔力を消費してまったために回復するまで時間がかかる

シャーリー『ライトニングFの方にも未確認生物が現れました』

ゴーカイレッド「なんだと！！」

そのころ

エリオ&キャロ「「はぁはぁはぁ！！」」

二人が追われている未確認生物はスバル達の方とは全然姿が違っていた

ヤートット「ヤートット！！！」

その正体はかつて「ギンガマン」に倒された「宇宙海賊バルバン」の「賊兵ヤートット」である

もちろんエリオ達も魔力をかなり消費していた

ゴーカイレッド「クソ！！テメエらじゃまだ！！」

ゴーカイレッドは必死にナナシ連中を切ったり撃ったりして倒してるが数がかなり多い

その時一体のナナシがゴーカイレッドを飛び越えてスバル達に切りかかろとした

ゴーカイレッド「しまった！！」

スバル&ティアナ&リイン「キャアアア！！！」

その時！！

ガキッン！！

スバル「・・・・・ん！？」

スバル達の目の前にはゴーカイレッドに似た「青い戦士」が居た

青い戦士「大丈夫か？」

と物静かに言う

青い戦士「ふん！、ハッ！！」

するとゴーカイサーベルにそっくりの剣でナナシの剣をなぎ払いそのままナナシを切り裂いた

ゴーカイレッド「・・・ジョー！？」

そうこの青い戦士は「ゴーカイブルー」ごと「ジョー・ギブケン」である

ゴーカイブルー「・・・マーベラスか！？、一体にどうなってんだ！？」

ゴーカイレッド「後で話す、まずは」

ゴーカイブルー「・・ああそうだな」

ゴーカイブルーはナナシ連中にサーベルを向けてそしてゴーカイガンを持つ左手を背中の後ろに
回した

ティアナ「あなたマーベラスさんの仲間ですか？」

ゴーカイブルー「そうだが」

ティアナ「なんで銃を背中の後ろに？」

ゴーカイブルー「俺は剣士だ・・・」

スバル「なんかかっこいい！！」

リイン「リインもそう思ったです！！」

ゴーカイブルー「派手に行かせてもらう！」

そう言うとレッドとブルーはナナシに向かった

ゴーカイブルー「フン！、フン！ハァ！」

ゴーカイブルーはサーベルだけで次々とナナシを倒していった

ゴーカイレッド「ハッ！！オラッ！！」

ゴーカイレッドもサーベルとゴーカイガンで倒して行った

ナナシ連中も残りわずかになった、するとレッドとブルーはゴーカイバックルから
レンジャーキーを取り出した

ゴーカイブルー「これで行くか」

ゴーカイレッド「面白れ！！いいぜ」

二人はモバイレーツにレンジャーキーを挿して

「「豪快チェンジ」」

モバイレーツ「「ジュウレンジャー！！」」

二人は１６番目のスーパー戦隊「恐竜戦隊ジュウレンジャー」の「ティラノレンジャー」と
「トリケラレンジャー」に変身した

スバル「あの人も！！」

ティアナ「変身した！？」

リイン「しかも青いです！」

トリケラレンジャー（ゴーカイB）「トリケランス！！」

トリケラレンジャー（ゴーカイB）は「トリケラレンジャー」の専用武器「トリケランス」
をで次々とナナシをなぎ払って行った

ティラノレンジャー（ゴーカイR）「龍撃剣！！」

ティラノレンジャー（ゴーカイR）は「ティラノレンジャー」専用武器「龍撃剣」でナナシを切り裂いて
行った。

そしてナナシ連中を無事倒すことができた、そして二人はゴーカイジャーに戻った

ゴーカイブルー「なんとか、片付いたな」

ゴーカイレッド「まだだ！向こうに別のがいる！！」

ゴーカイブルー「心配するな・・、向こうにはルカいる」

ゴーカイレッド「ルカも居るのか！？」

ゴーカイブルー「ああ・・」

ゴーカイレッド達がナナシ連中と戦ってたころ

エリオとキャロはヤートット達に追い詰められていた

エリオ「このままじゃ・・・！」

キャロ「エリオ君・・・」

ヤートットが襲い掛かろうとした時

???「あんた達、少し伏せて！」

エリオ&キャロ「「！？！？」」

その声にしたがって伏せた時

ヤートット「ヤートット！？！？」

飛んできた”何か”がヤートットをリニアから振り落とした

それから続けて数体のヤートットを振り落とした
エリオとキャロは後ろを見たそこにゴーカイレッドに少し似たスーツを着た
「女性」だった、そう彼女こそ「ゴーカイイエロー」こと「ルカ・ミルフィ」である

キャロ「あの・・もしかしてマーベラスさんの仲間の人ですか?」

ゴーカイイエロー「マーベラスを知ってるの!?」

エリオ「はい、僕達が保護しています」

ゴーカイイエロー「保護!?、どう言うことかわからないけど・・」

ゴーカイイエローは残りヤートットを見た

ゴーカイイエロー「話はあいつらを倒してからってことで、豪快チェ

ンジ！！」

モバイレーツ「ゴーオンジャー！！」

ゴーカイイエローは３２番目のスーパー戦隊「炎神戦隊ゴーオンジャー」の
「ゴーオンイエロー」に変身した

ゴーオンイエロー（ゴーカイＹ）は「ゴーオンイエロー」の専用武器「レーシングバレット」
を左腕に乗せて

ゴーオンイエロー（ゴーカイＹ）「レーシングバレット！！」

すると「レーシングバレット」が左腕から走りだしそのままヤートットを薙ぎ倒した

ゴーオンイエロー（ゴーカイＹ）「バイバ～イ！！」

落ちたヤートットにそお言いながら「ゴーオンイエロー」から「ゴ

ーカイイエロー」に戻った

？？？

とある研究所？でその映像を見ていた紫の髪の男、この男は科学者
でありながら「次元犯罪者」
である「ジェイル・スカリエッティ」である

スカリエッティ「これが「彼」が言っていたスーパー戦隊か、実に
すばらしい！！」

スカリエッティの横に居る秘書のような紫の髪の女性、彼女はスカ
リエッティが生む出した
「ナンバーズ」の一人ＮＯ．１の「ウーノ」である、スカリエッテ
ィはウーノに話かけた

スカリエッティ「見たまえウーノ！！、彼らは魔力を持っていない
にもかかわらずガジェットを簡単に
倒してしまう戦闘力しかも！！、あの赤と青と黄
色の戦士はさっきの姿から別の姿に
変身するとは！！」

ウーノはスカリエッティに問いかけた

ウーノ「それはわかります、しかしドクターあの「得体のしれない者」と手を結んだんですか？」

すると

？？？「得体のしれない者とは聞き捨てならぬな、それに似た目的をもった者同士ではないか」

ウーノ「！！、・・もうしわけありません・・」

ウーノは？？？に頭をせげて

スカリエッティ「これが君が言っていたスーパー戦隊だろ？」

???「そうだ!、この世界に来ていたとは都合がいい」

スカリエッティ「彼は本当に素晴らしい!!、興味をそそられるよ
君と手を結んだことが正解だったよ」

???「私もそう思った!、だからお前の夢を実現させるのを手伝ってやろスカリエッティ
だがその代り。」

スカリエッティ「わかってるよ、君の目的でもある・・・「スーパー戦隊への”復讐”」
私も手伝おう彼にも興味がでてきたからね・・」

???「フフ・・」

スカリエッティ「フフ・・」

スカリエッティ&？？？「「フフフフ・・・！！」」

スカリエッティと？？？笑い声が研究所内に響き渡った

つづく

第6話「貨物列車での再会！！」（後書き）

？？？の正体は一体誰だ！？

第7話「宇宙海賊、再集結！！」（前書き）

おまたせしました第7話です

第7話「宇宙海賊、再集結！！」

ジョーとルカが見つかって数日、ジョーとルカはここが異世界としってもあんまり驚かない。

ジョーは「まったく意味がわからん」とルカは「ふう～」

機動六課・隊舎裏

ジョーとシグナムは剣の稽古をしていた

ジョー「ハッ、ハッ、タァァ！」

シグナム「フン！、ハッ、ハァァァ！」

ゴーカイサーベルとレヴァンティンが打ち合う

シグナム「いい腕だな」

ジョー「お前もな・・」

隊舎内

リインが何かをしていたそこに、シャーリーが来た

シャーリー「リイン曹長、ご休憩ですか？」

リイン「休憩半分、お仕事半分。個人的な勤務日誌をつけてたですよ」

そこえ、マーベラスが通りすぎて行く

リイン「あの～、マーベラスさんまたうろついてるんですか？」

マーベラス「それがどうした」

シャーリー「一応、マーベラスさん達は民間協力者であり保護されてる身なんですよ」

後、ジョーやルカも民間協力者になった

シャーリー「後それと・・」

マーベラス「無理だ!!」

シャーリー「まだ何も言おうともしてないのに〜」

どうせモバイレーツやレンジャーキーを調べさせろだろうと言うのが見え見えである

部隊長室

ルカ「はい!」

ルカが手をだす

はやて「ルカさん、その手は何や！？」

ルカ「何て、報酬よ報酬！」

報酬＝¥である

はやて「いやいやなんでそうなるんや」

ルカ「あの時、あの子達を助けてやったんだからそれに一応この世界のお金も必要だし」

はやて「ルカさんまだ皆さん外出許可は出されへんかんにんや」

ルカ「えええ～！！」

それから数日後ヘリ・上空

今回の任務はホテル・アグスタで行われるオークションの護衛である

そしてヘリの中で移されたのは

はやて「違法研究で公益指名手配されている次元犯罪者、ジェイル・スカルエッティを線にして捜査を始める」

マーベラス「俺らから見ればザンギャックのちょい二番目の悪党だな」

ジョー「皇帝の馬鹿息子よりはましだ」

ルカ「あたし達言うところの「アリエナイザー」てっところかしら」

なのは「ちょっとマーベラスさん達何言ってるんですか!!、後なんですか「アリエナイザー」て!?」

ジョー「俺達の宇宙で言う宇宙犯罪者だ」

スバル「宇宙にも犯罪者が居るんですか!?」

ジョー「まあな・・」

アリエナイザーとは特に自身の特殊能力を使って犯罪を起こす者の総称でもある。

マーベラス「それで今回はなにすりゃいいんだ？」

ルカ「そのなんとか、て言うホテルで何すんのあたし達は何すんの？」

二人が言う

なのは「”アグスタ”ですよルカさん、今回は骨董美術品オークションの会場警備とじいいん警護

今回のお仕事」

なぜ六課がそこの護衛をするのかそれは取引許可がでてる「ロストロギア」がいくつもあるので

もしガジェットがそれを感知してしまう可能性があるので六課に出動要請がでった

はやてがホテル・アグスタの状況を説明していた現地ではシグナムとヴィータが先に警備についていった

すると、キャロがシャマルの兄元にある物を見つけた

キャロ「あのシャマル先生、さっきから気になっていたんですけどその”箱”は？」

シャマル「んっ？、あっこれ　これは隊長達とジョーさんの「お仕事着」」

ジョー「俺の？聞いてないぞ」

シャマル「聞いてないんですか？、はやてちゃんから聞いてないんですか？」

ジョー「ああ・・」

ジョーがはやてのほうに顔を向けると

はやて「（笑）」

顔が笑っていた・・・はやてが

マーベラス&ルカ「「！？！？」」

そしてホテル・アグスタ

ホテルの受付員「！？」

受付員ビックリした

はやて「こんにちは、機動六課です」

そこにはドレスを着たはやて・なのは・フェイト、」そして

ジョー「・・・・」

タキシードを着たジョーである

受付員は六課が来るのを知っていたのでわかっていたが、まさかおめかししてくるとは思っていなかった

はやて「ジョーさん、似合っとるよタキシード」

なのは「かっいいですよジョーさん」

ジョー「それはいいが、なんで俺だ？」

はやて「いやだって、マーベラスさんやルカさんやったらまずいやろ」

その理由は

マーベラス＝ふてぶてしい態度と絶対服装見出しそう

ルカ＝なんか盗みそう（金目の物）

ジョー「たしかにあの二人ならやりかねないな・・」

ジョーも納得

なのは「にっははは～（汗）」

ホテルの外

ホテルの外ではフォワード達とマーベラスとルカが警備をしていった

ティアナ「・・・・」

その時ティアナは焦りにも近い物を考えていた

ティアナ（六課の戦力は無敵を通りだして異常だは、隊長格は全員がオーバーS副隊長でもニアSランク

前線と管制官も未来のエリート揃いそして・・・　次元漂流者のマーベラスさん率いる海賊

達マーベラスさんはあのシグナム副隊長と引き分けたり、仲間のジョーさんとルカさんもそれと
同等の力、それにあの鍵”レンジャーキー”　マーベラスさんが居る世界の地球を守り続けた伝説の
戦士達の力」

ティアナはゴーカイジャーが持つスーパー戦隊の力に危機感を持つ、鍵一つでその戦士に姿が変わりさらに同じ技が使える
それに彼らが”海賊”であること忘れてはいなかったもし彼らが悪い海賊だったらどうしょうと最初は思ったでも今は彼がいい海賊だとわかったからだ。

この部隊で”凡人”は私だけか・・・

ティアナ（・・・でもそんなの関係ない！、私はここで立ち止まる訳にはいかない！！）

ホテル・アグスタから数十キロはなれた場所

そこに大柄の男と小さな女の子が居た、男の名前は「ゼスト」　女の子の名は「ルーテシア」

ゼスト「あそこかお前の探し物はここにはないのだろ、・・・何か

気になるのか？」

ルーテシア「・・・（コクッ）」

首を下げて答えた

そると虫（？）見たいなものがルーテシアの指に止まった

ルーテシア「ドクターのおもちゃとドクターの友達の子が近いてるって・・・」

ホテル・アグスタ

ホテルの外でガジェットとの戦闘が始まった地下駐車場の警備をしていたエリオとキャロはすぐさま地下を出た

さらに

ジョー「悪いが俺も行かせてもらう」

なのは「!?、ジョーさん!?」

はやて「わかった、地下にはマーベラスさんが行った、ジョーさんには外の援護に行ってください」

ジョー「まかせろ」

ジョーは外に出てすぐに

ジョー「豪快チェンジ!」

モバイレーツ「ゴーカイジャー!!」

変身した

ホテル・アグスタ地下駐車場

地下ではゴーカイレッドが

ゴーカイレッド「なんだテメェ！？」

怪物みたいのがいったこの怪物はルーテシアの召還獣「ガリュー」である

ゴーカイレッド「どうやら狙いはトラックの中のお宝だな」

ガリュー「・・・・」

次の瞬間

シュッ！！

ゴーカイレッド「！？」

あまりの速さにゴーカイレッドが吹き飛ばされてさらにトラックの中にあった物をとっていった

ゴーカイレッド「あのヤロウ！、海賊からお宝を奪うとはやってくれるな・・」

そころ外ではとんでもなことがおこったティアナの放ったクロスファイヤーシュートの魔玉の一つが
スバルに当たろうとしていたが、ヴィータが駆けつけて魔玉を弾き返した

ヴィータ「ティアナ！！この馬鹿！！無茶やった上に味方撃ってどうすんだ！！！（怒）」

スバル「あの…ヴィータ副隊長　今のも、その…コンビネーションの内で……」

ヴィータ「ふざけろタコ！、直撃コースだよ・・今のは！！！（怒）
」

すると

ヴィータ「！？」

ヴィータに突然雷撃が放たれたしかしなんとか防ぐことができた

？？？「ホホホ、あの攻撃を防ぐとは中々やるはね」

すると謎の声が聞こえてきた

ヴィータ「・・・！、誰だ！！」

ヴィータが叫ぶと声の主が現れた

メーミィ「我は魔導神官メーミィ!!、かつてインフェルシアの魔導神官であり今はあのお方の配下」

魔導神官メーミィ、かつて「マジレンジャー」が倒した「地底冥府インフェルシア 」の幹部である

そして地下

ゴーカイレッドの前には「インフェルシア」の戦闘員「冥府兵ゾビル 」が１０体もいた

ゴーカイレッド「なんだおまえら!、邪魔すんな!!」

ゴーカイレッドは先ほどシャマルか連絡をうけていた、それはヴィータ達の目の魔にメーミィが現れたからだ

ゴーカイレッドはゾビル達に攻撃していたしかしその隙に後ろに二体がまわっていてレッドに攻撃しようとしていた・・その時!!

ドドドドッ！！

後ろからの銃撃でゾビル達が倒された

ゴーカイレッドは目を疑った

ゴーカイレッド「お前は・・・」

ハカセ！！

そう「ゴーカイグリーン」ごと「ドン・ドッゴイヤー」ごと通称「ハカセ」である

ハカセ「マーベラス～！！、やっぱりマーベラスだ！！」

ゴーカイレッド「なんでお前がここに、それにその格好・・」

今ハカセの格好はなぜかホテルマンの格好だった

ハカセ「・・・！！これ・・ちょっと理由が・・」

♪～

ハカセはモバイレーツを取り出した

ハカセ「あ、アイム！・・・えー！！ジョーとルカもいたの！？」

ゴーカイレッド「アイムも居るのか！？　・・・今は再会にひったてる場合じゃねえ！、こいハカセ！！」

ハカセ「!?どこ行くのマーベラス!!、待ってよ〜!!」

再びアグスタ外

メーミィ「メー・ザザレ」

メーミィは呪文でゾビルをだした

ヴィータ「なんだあの魔方陣!!」

ヴィータはビックリするミッド式やベルカ式とも違う魔法を使うメーミィに驚く
召還されたゾビルは１００体は居る

ヴィータ「（数が多すぎる）一旦下がれ!」

ヴィータはフォワード達を守るために４人を一旦下がれたしかしテ

ィアナが下がっていなかった
さっきのミスとゾビル達に恐怖して足が動かなかったからだ

ヴィータ「ティアナ！！何してんだ！？下がれ！！」

スバル「ティア！！！！」

ゾビルがティアナに襲い掛かろうとしたその時

ドドドドッ

銃弾がゾビルにあった

この場居る全員が銃弾の撃った場所に顔をむけるとそこにはゴーカイガンをもったマーベラス、真ん中のマーベラスから右にジョーとルカ
左にハカセとアイムが居た

緊急事態のためにすでにセットアップしていたなのはが口を開いた

なのは「マーベラスさん、ジョーさんにルカさん、それにあの二人は・・・」

メーミィ「あんた達、まさかあの「お方」が言っていた海賊ね！」

マーベラス「だったらどうした？」

メーミィ「決まってるは！あんた達を倒せ言われてるからね！！」

ジョー「だったら・・・お前を返り討ちしてやる」

ルカ「そう言うこと、バーカ！！」

ハカセ「なんだかわからないけど、僕もお前を許さない！」

アイム「あなたのような「変」な方は許しませんよ私も！」

メーミィ「キ～！！」

マーベラス「それにだ俺達は海賊だ」

気に入らないモンはブッ潰す！！それが海賊だ！

すると5人は「モバイレーツ」と「レンジャーキー」を取り出す

5人「「「「「「豪快チェンジ！！！」」」」」」

モバイレーツ「ゴーカイジャー！！」

すると5人は「赤」「青」「黄」「緑」「桃」色の戦士に変身した

ゴーカイレッド！！

ゴーカイブルー！！

ゴーカイイエロー！！

ゴーカイグリーン！！

ゴーカイピンク！！

それぞれ名乗りして時後ろに銀河見えたそしてその後に5人の後ろに海賊旗が現れてそして

ゴーカイレッド「海賊戦隊！！・・・・

」

「「「「「ゴーカイジャー！！！」

」」」」

今ミッドチルダに３５番目のスーパー戦隊が異世界に豪快に現れた

！！

つづく

第7話「宇宙海賊、再集結！！」（後書き）

じ～かい！ゴーカイジャー五人の戦いが始まります

第8話「溢れる勇気を魔法に変えて！！」～マージ・マジ・ゴー・ゴーカイ～

久しぶりです、ここんところ色々ありまして遅くなりましたが
ではどうぞ

第8話「溢れる勇気を魔法に変えて！！」～マージ・マジ・ゴー・ゴーカイ～

ミッドチルダ・ホテルアグスタ

今ここにかつて「マジレンジャー」が倒したメーミィと大量のゾビルそして、

なのは達機動六課面々と5人そろったゴーカイジャーが居る

なのは「海賊戦隊・・・」

フェイト「ゴーカイジャー・・・」

なのはとフェイトそして六課のメンバー達はその名乗りに唖然していた

ゴーカイグリーン「ねえ、マーベラスあの人達ダレ？」

ゴーカイピンク「魔法使いのような格好していますが？」

グリーンとピンクが問いかける

ゴーカイイエロー「そんなの後々」

ゴーカイブルー「あいつらを片付けてから話す」

ゴーカイレッド「とっとと片付けるぞ！！」

派手に行くぜ！！！

ゴーカイレッドの掛け声でゴーカイジャー5人がゾビル達に突っ込んだ

メーミィ「ホホホ！、たった5人で来るなんて愚かだは行けゾビル！！」

その声にゾビル達がゴーカイジャーに向かった

なのは「あの大勢の敵に突っ込むなんて！！」

フェイト「危険すぎるよ！」

二人の言う通り普通は無謀である１００人対５人は

シグナム「しかたない私達もマーベラス達を援護するぞ」

ヴィータ「お前ら後ろに下がっておけ言いな！」

スバル「はっはい！、さあティア」

ヴィータの指示でフォワード４人は後ろに下がった

そのころゴーカイジャーは相手の物量なんかお構いなしに戦っていた

ゴーカイレッド「ハッ！ソラッ　オラ！」

ゴーカイサーベルとゴーカイガンでゾビル達を倒して行く

ゴーカイブルー「フンッ！！フンッ！」

ブルーはゴーカイガンを左手を背中の後ろに回しサーベルだけでゾビル達を斬っている、すると

ゴーカイブルー「アイム！」

ブルーはゴーカイガンをピンクに投げ

ゴーカイピンク「受けてまいりました、ジョーさん」

ピンクもサーベルをブルーに投げる

ゴーカイブルー「フンッ！ハッ！」
ピンクから受け取ったサーベルで二刀流で戦うブルー

ゴーカイピンク「参ります！！ハッ！！」
ブルーからゴーカイガンを受け取り二丁拳銃をゾビルに撃つピンク

ゴーカイイエロー「ハカセ！！」

ゴーカイグリーン「ルカ！！」

イエローとグリーンも同じようなことをする

ゴーカイイエロー「オラオラオラ！！、行くよ！！」

イエローはグリーンからサーベルを受け取りさらに持ち手のところにロープをつけて
それをムチのように振り回す二刀がまるで舞っているように動いて

ゾビルを倒している

ゴーカイグリーン「うややややっ！！」

グリーンの不可解な戦い方にゾビル達も困惑その好きにゾビルにゴーカイガンを連射するグリーン

ゾビルの五体がレッドに向かってきたしかし

ディバイン・・・バスター！！！

桃色の閃光がゾビル達をふっ飛ばした

なのは「マーベラスさん！大丈夫ですか？」

それはなのはの砲撃魔法「ディバインバスター」である

ゴーカイレッド「悪い、助かった」
なのはに礼を言うレッド

なのは「私達も戦います！」

ゴーカイレッド「へっ！面白い着いて来いよ！！」

なのは「はい！」

ハーケンセイバー！！！

ブルーのほうに三日月型のような刃が飛んできてゾビル達を薙ぎ飛ばした

フェイト「ジョーさん！！」
それはフェイトのデバイス「バルディッシュ」から放たれた魔法「ハーケンセイバー」である

ゴーカイブルー「お前か・・」

フェイト「一緒に戦いましょ！！」
と言うと

ゴーカイブルー「フッ・・・余計なことを・・・」
と言いながらブルーとフェイトはお互い背中を合わせながらゾビル達を倒して行く

ゴーカイイエロー「たく！！しつこいわね！！」
とイエローがぼやくとゾビル達が飛び込んできた

ドッカ、ドッカ！！！

すると鉄球みたなものがゾビル達をふっ飛ばした

ヴィータ「へへっ、油断大敵だぜ！」

それはヴィータがデバイス「グラーフアイゼン」で打った鉄球である

ゴーカイイエロー「ちっこいアンタに言われてもね～」

ヴィータ「オイ！・・それはアタシを子供扱いしてんのか！！（怒）」

するとイエローはサーベルをヴィータに投げる

ヴィータ「！？！？！」

ビックリするが上に通過した

ヴィータ「テメェ！！いきなり何すん・・・」

ゴーカイイエロー「う・し・ろ」

ヴィータ「後ろ？！」

後ろを向くとゾビルが倒れていた

ゴーカイイエロー「アンタも油断大敵よ」

ヴィータ「う・・うるせー！！」

ゴーカイイエロー「そんなのおいとて・・・派手にいちゃう！？」

ヴィータ「フン！、もちろん！！」

アイゼン！！！

そのころグリーンとピンクはゾビル達を遊撃していたその時

飛竜・・・一閃!!

それはシグナムの「飛竜一閃」であるそのままゾビル達を倒した

ゴーカイピンク「あなた・・」

シグナム「話は後だ!、・・おい!?そこ緑のお前!」

ゴーカイグリーン「えっ!?僕?」

ゴーカイピンク「?!ハ・・ハカセさん!!お尻が・・」

ゴーカイグリーン「お尻？・・・・ギャ！！！」

グリーンのお尻に火が燃えていた実は「飛竜一閃」の火の粉が偶々
グリーンのお尻についてしまった

シグナム「すまない・・・」

とりあえず火は消せた

するとまたゾビルたちがきた

シグナム「ここは私が接近してお前達が援護射撃をしてくれ」

ゴーカイグリーン「えっとわかった・・」

シグナムの気迫にビビったグリーン

ゴーカイピンク「受けてまわりました！」

シグナムが「レヴァンティン」でゾビル達を切り裂きグリーンとピンクがゴーカイガンで援護射撃をする。

しかしなのは達が加わっても約半分ぐらいしか倒すことしかできない

フェイト「さすがに多いね」

シグナム「ああ、ガジェットと違い知性があるからな」

ヴィータ「ここのままじゃこっちがやられちまうよ」

なのは「でも・・やるしかないよヴィータちゃん！」

ゴーカイレッド「5人揃ったんだ！」

「アレ」をやるぞ

ゴーカイブルー「「アレ」か・・」

ゴーカイイエロー「イイね〜！「アレ」ね！」

ゴーカイグリーン「やろうよ「アレ」」

ゴーカイピンク「ハイ！やりましょ！！」

なのは達「「「「アレ！？」」」」

なのは達は頭に？が浮んだ

ゴーカイジャー達はバックルかレンジャーキーを取り出したそして

「「「「「豪快チェンジ！！」」」」」

ゴォォレンジャー！！

5人は最初に地球を守った最初のスーパー戦隊「秘密戦隊ゴレンジャー」に変身した

なのは「わっ！」

フェイト「ええっ！」

ヴィータ「3人だけだと思ったら・・・！！」

シグナム「あの二人も変身するとは」

４人は豪快チェンジができるのはレッド、ブルーとイエローかと思っていてたのでまさかグリーンとピンクまでできとは思っていなかった

モモレンジャー（ゴーカイＰ）「ゴレンジャーハリケーン！、参ります！！」

モモレンジャー（ゴーカイＰ）はラグビーボール似たボールを出す、これこそゴレンジャーハリケーンをにひつようなラグビーボール型爆弾「エンドボール」。

アカレンジャー（ゴーカイＲ）「ゴレンジャーハリケーン！！「霊柩車」！！」

なのは「えっ！？、今なって言ったの？」

フェイト「たしか霊柩車ていったけど・・」

何かわかんない彼女達を差し置いてアカ、アオとキとミドレンジャーの四人は走り始めた

モモレンジャー（ゴーカイP）「ハカセさん！！」

モモレンジャー（ゴーカイP）は「エンドボール」ミドレンジャー（ゴーカイG）の方に投げた

ミドレンジャー（ゴーカイG）「よっ！よっと！！」

それを頭で止めそのままヘディングでキープする

ミドレンジャー「ルカ！！」

ミドレンジャー（ゴーカイG）はキレンジャー（ゴーカイY）にパスをするが・・

ミドレンジャー（ゴーカイG）「・・・てっ！？、わっ！！」

ゾビルに妨害されてエンドボールが別の方に飛んでいったそれは

シグナム「えっ！？」

シグナムにキャッチされた

するとゾビル達はシグナムに突っ込んでくる

シグナム「えっ？！、ど・どどどうすれば！！」

パニくるシグナム、常に冷静なシグナムがあわててパニくるなんて
あまりないだろう

キレンジャー（ゴーカイY）「シグナム！！こっちこっこ！！、こ

っちにパス！」

キレンジャー（ゴーカイＹ）がパスを要求

シグナム「わかった！ミルフィ！！」

その指示にしたがいキレンジャー（ゴーカイＹ）にパスをするシグナム

キレンジャー（ゴーカイＹ）「ほっ、ほっと！」

それを胸の辺りで受け止めそのままリフティングでキープ、その時キレンジャー（ゴーカイＹ）はあることを思いついた

キレンジャー（ゴーカイＹ）「フフ・・・ヴィータ！」

ヴィータ「へ！？」

エンドボールをヴィータにパスをしたそのままヴィータはキャッチした

無論今度はヴィータにゾビル達が突っ込んできた

ヴィータ「こ、今度はアタシかよ!!!」

やむおえず

ヴィータ「フェイト!、パス」

フェイト「えっ!?そんな!!（汗）」

突然渡されて混乱するフェイト

フェイト「えーと!?、なのは!お願い!!」

なのはにエンドボールを渡す

なのは「えっ！？フェイトちゃんそんな！！（泣）」

さーどうすなのは・・・

なのは「これどうすればいいの！！」

アオレンジャー（ゴーカイB）「こっちだ！！」

アオレンジャー（ゴーカイB）がパスを要求

なのは「はっはい！、ジョーさん！！」

ボールはアオレンジャー（ゴーカイB）にパスされた

アオレンジャー（ゴーカイB）「ナイスパスだ・・・マーベラス！！」

アカレンジャー（ゴーカイR）「おっしゃー！！」

エンドボール！！

ドロップキックのようなシュートでボールを蹴るアカレンジャー（ゴーカイR）
ボールはゾビル達の前に落ちすると霊柩車になった

シグナム「れ、霊柩車に・・・（汗）」

ヴィータ「なりやがった！！（驚）」

すると霊柩車の後ろの扉が開いた

フェイト「あっ！開いた」

なのは「一体何が起こるの！？」

そして

ブォォォォォ！！！

開いた扉がゾビル達を吸い込み始めたかなりの数のゾビル達を吸い込んで扉が閉まり
霊柩車はどこかえと走り始めた

はやて「なんなんアレは、ボールが霊柩車になって敵をス吸い込んでさらにどこ行くね！？」

ホテル・アグスタの中で状況を見ていたはやても驚き

ヴェロッサ「彼らが君が言っていた海賊達かいはやて」

はやてに話しかけた緑色の髪の男性、彼はヴェロッサ・アコース時空管理局の査察官である、
血は繋がっていないが聖王教会のカリムの義弟である

はやて「まあそうや・・」

ヴェロッサ「まさかあんなのが見れるなんてね・・」

ヴェロッサは「ゴレンジャー・ハリケーン　霊柩車」に驚く

そして外では後残りわずかのゾビル達が行った

アカレンジャー（ゴーカイR）「ウゼェな、まだ居るのか性懲りもなく」

なのは「あと少しですよ」

アカレンジャー（ゴーカイR）「一気に蹴散らすぞ！、なのはお前らも手伝えよ」

なのは「もちろんですよマーベラスさん」

フェイト「なのはと同じですよ私も」

ヴィータ「それにアタシらは援軍に来たらんだからな当然だろ」

シグナム「それに騎士は最後まで敵と戦うまでだ」

それを聞いたレッドは鼻で「ヘッ！」とするそしてゴレンジャー達

が別のレンジャーキーを取り出す

ゴレンジャー「「「「「「豪快チェンジ」」」」」」

モバイレーツ「「「「「「オーーーレンジャー！！」」」」」」

5人が変身したのは19番目のスーパー戦隊「超力戦隊オーレンジャー」に変身した

オーレッド（ゴーカイR）「行くぞ！！なのは！」

なのは「はい！！」

なのはがレッドとコンビ、フェイトがブルーとヴィータがイエローと、シグナムがグリーンとピンクと組んで戦う

オーピンク（ゴーカイＰ）「参ります！！」

オーピンク（ゴーカイＰ）が専用武器「サークルディフェンダー」と言う盾を取り出した

オーピンク（ゴーカイＰ）「疾風・超力ディフェンサー！！」

そうするとピンクが相手に体当たりでゾビル達が上えと飛んでいっくとグリーンとシグナムが空中にジャンプした

オーグリーン（ゴーカイＧ）「電光・超力クラッシャー！！」

シグナム「紫電一閃！！」

グリーンの専用武器「スクエアクラッシャー」とシグナムのデバイス「レヴァンティン」で切り裂き
ゾビル達が爆発した

オーピンク（ゴーカイＰ）「やりましたね！」

シグナム「ああっ！」

オーグリーン（ゴーカイG）「くう～！！」

シグナム「？、どうしたんだ？」

シグナムがしゃがみこんでるオーグリーン（ゴーカイG）に問いかけた

オーグリーン（ゴーカイG）「着地した時、足がキーンとして痛い～！！」

よくあるよね高いところから着地した時に足がキーンて痛くなる、よく起こるよねそれ

オーピンク（ゴーカイP）「まぁー！！」

シグナム「っ・・・・」

シグナムは呆れた

そしてオーイエロー（ゴーカイＹ）とヴィータは

オーイエロー（ゴーカイＹ）「オラオラオラ！！、行くよ！ツインバトン」

ヴィータ「行くぜ！！アイゼン！！」

グラーフアイゼン『ギガントフォルム』

オーイエローの専用武器「ツインバトン」とヴィータのデバイス「グラーフアイゼン」でゾビルを倒して行く

オーイエロー（ゴーカイＹ）「一気に決めるよ、炸裂・超力バトン！！」

ヴィータ「ラケーテンハンマー！！」

二人が回転しながらゾビル達に突っ込んでくるまるで二人が竜巻のようだ

ドッガーー！！

オーイエロー（ゴーカイY）「あんたそっち（魔道師）より海賊ほうが性に合ってるんじゃない？」

ヴィータ「残念だけどアタシは今の方が性に合ってるんだよ」

そしてオーブルー（ゴーカイB）とフェイト

オーブルー（ゴーカイB）「フンッ、フンッ！！」

オーブルーの専用武器「デルタトンファ」で敵を倒す

フェイト「バルディッシュ！！」

バルディッシュ『サイズフォーム』

フェイトのデバイス「バルディッシュ」が鎌の用な形「サイズフォーム」でゾビルを倒すフェイト

オーブルー（ゴーカイB）「決めるぞ！！」

フェイト「ハイ！！」

フォトンランサー！！　ファイヤー！！

稲妻・超力トンファ！！

フェイトの「フォトンランサー」でゾビルにダメージを与えそしてブルーが必殺の「稲妻・超力トンファ」でとどめをさした

フェイト「やりましたね！」

オーブルー（ゴーカイB）「フッ！」

振り向かなかったが右手を上げ「グット」をした

そしてオーレッド（ゴーカイR）となのはは

なのは「アクセルシューター！！」

なのはの魔法「アクセルシューター」の魔弾がゾビル達にダメージを与え

オーレッド（ゴーカイR）「スターライザー！！」

オーレッドの専用武器「スターライザー」で次々とゾビルを切り裂いていく

なのは「ディバイン・・・バスター！！」

なのはが放った「ディバインバスター」がゾビルに命中し吹き飛んで行くゾビル

オーレッド（ゴーカイR）「くらえ！！　秘剣・・・・超力ライザー！！」

吹き飛ばされたゾビルにレッドの必殺の「秘剣・超力ライザー」で切られたゾビル達は

ドッガーーーン！！！

爆発した

そしてオーレンジャーからゴーカイジャーに戻った5人

メーミィ「そんな・・・馬鹿な!!」

メーミィも唖然

ゴーカイレッド「次はテメエだ、オカマミイラ!!」

メーミィ「くー!!不愉快!!、あんた達なんか我の魔法で消しさてあげるわ!!」

ゴーカイレッド「面白れ、なのは俺達の」

魔法を見せてやるぜ

なのは「えー!?、マーベラスさん魔法使えるんですか!?」

ゴーカイレッド「こいつでな」

ゴーカイジャー達は別のレンジャーキーを出した

「「「「「豪快チェンジ」」」」」

モバイレーツ「「「「「マァァァジレンジャー!!」」」」」

５人は２９番目のスーパー戦隊「魔法戦隊マジレンジャー」に変身した、そしてマントを掴みながら一回転回りマントを払うと

マジレッド（ゴーカイＲ）「魔法戦隊・・」

「「「「「マジレンジャー！！！」

「「「「

メーミィ「マジレンジャー　ですって！！」

マジレッド（ゴーカイＲ）「海賊版だがな」

メーミィ「その姿を見ただけで不愉快だわ！！、消えなさい！！ドーザ・メル・ザザード！！」

メーミィは扇から黒い雷を放った

フェイト「危ない！！」

フェイトが叫ぶ、すると5人はマジレンジャーの携帯電話型変身アイテム「マージフォン」を取り出し
番号を打つ

マージ・マジ・ゴー・ゴーカイ！！

マージフォン「マ〜ジ・マジ・ゴー・ゴーカイ！！」

エネルギー波が放たれすると雷がメーミィの方に帰り巻きつく

メーミィ「ぎゃひひひひひ！！！」

感電した

マジイエロー（ゴーカイＹ）「まずはあたしから、イエローサンダー！！」

マジイエローの専用武器「マジスティックボーガン」から必殺の「イエローサンダー」が炸裂

マジブルー（ゴーカイＢ）「ブルースプラッシュ！！」

マジレンジャーの共通武器「マジスティック」から必殺の「ブルースプラッシュ」炸裂

マジピンク（ゴーカイP）「ピンクストーム！！」

ピンクのマジスティックから必殺の「ピンクストーム」が炸裂

マジグリーン（ゴーカイG）「よっと、グリーングランド！！」

マジグリーンの専用武器「マジスティックアックス」から放たれたツタ必殺の「グリーングランド」が炸裂

マジレッド（ゴーカイR）「最後は俺だ！！、レッドファイヤー！！」

マジレッドの専用武器「マジスティックソード」を持ち炎をまとい
メーミィにつっ込む必殺の「レッドファイヤー」
がメーミィに直撃

メーミィ「そんな・・・馬鹿な！！」

ドッガーーーン！！

メーミィは爆発した

なのは「すごい・・・」

フェイト「魔法を使うスーパー戦隊・・」

スカリエッティのアジト

スカリエッティ「すばらしい！！魔法を使うスーパー戦隊にも変身できるのか！！」

興奮するのもあたりまえである

スカリエッティ「しかしもっと彼の力を見たかったな」

???「心配するなスカリエッティ、・・・・ハッ!!」

ホテル・アグスタ

メーミィが倒された場所に黒い煙のような物があられた

ヴィータ「!、何だあれ」

フェイト「何あれ？」

すると煙はだんだん大きくなりそして

メーミィ「フホホホホ！！、これこそあの「お方」の力よ！！」

巨大化したメーミィである

シグナム「巨大化しただと」

シグナムは驚く

ホテル内

はやて「まるで怪獣やな・・・」

ヴェロッサ「ロボまできたら、漫画みたいだね」

ホテル外

ヴィータ「どうすんだよあれ」

なのは「私がリミッターを解除しても倒せるかどうか・・」

シグナム「しかしこのままではホテルを踏みつけられる」

フェイト「どうしたら・・・」

ゴーカイレッド「こいつも巨大化すんのかよ」

ゴーカイイエロー「まあ慣れっこだし」

フェイト「な?!慣れっこ!?」

フェイトはイエローの言葉に「えっ!?」と思った

ヴィータ「お前ら何言ってんだ!?この状況で」

ゴーカイレッド「こっからは俺達の専門だ」

レッドはモバイレーツを取り出し「５５０１」の番号を押した

モバイレーツ「ゴーカイガレオン！！！」

すると上空にゴーカイガレオンがやってきた

ゴーカイジャー「「「「「ハッ！！」」」」」

ガレオンから垂れ下がったロープに捕まりガレオンに乗り込むゴーカイジャー

シグナム「まさかあの船で戦うと言うのか！？」

フェイト「でもあの船だけでたおせるのかな？」

ゴーカイガレオン内

ゴーカイレッド「行くぞお前ら！！」

ゴーカイブルー「ああ・・」

ゴーカイイエロー「オッケー！」

ゴーカイグリーン「いいよ！」

ゴーカイピンク「参りましょ！」

するとガレオンの中央が開き巨大な乗り物がでてきたこれこそゴーカイマシンである

なのは「ふ、船から・・」

フェイト「巨大な・・」

ヴィータ「のりもんが・・・・」

シグナム「出てきた・・・」

はやて「まさかこれは・・・・」

ゴーカイレッド「いくぜ」

「「「「「海賊合体！！！」」」」

「「「「

ガレオンの中央のほう折りたたみ先端が開きそこには顔があった

上から「ゴーカイレーサー」が右側にくっつき、左から「ゴーカイジェット」がくっつき

下から「ゴーカイトレーラー」右側にくっつき、左から「ゴーカイマリン」がくっつき

最後に海賊の帽子をかぶりと

完成！！ゴーカイオー！！

全速前進！！

５体のマシンが合体したゴーカイジャーのロボ「ゴーカイオー」である

スバル「ロボットになった！？」

エリオ「カッコイイ！！」

フォワード達はゴーカイオー見て驚き仰天

メーミィ「それはどうかしら！！、メー・ザザレ」

するとメーミィは魔法で巨大な冥獣「オーガ」をだした

なのは「巨大な敵が2体も！」

シグナム「卑怯者め！！」

メーミィ「ホホホ！！勝てばいいのよ！、おゆき！！オーガ！」

ゴーカイレッド「よっしゃ！！」

ド派手に行くぜ！！

ゴーカイオーは2体に向かっていった二刀流の内の片方でオーガの金棒が受け片方はオーガを切り裂いた
しかしオーガはまた向かって来た、すると

ゴーカイレッド「あぁ？」

オーガはゴーカイオーの後ろから抑えた

ゴーカイグリーン「もー邪魔だよ！」

必死に剥がそうとするがオーガは中々離れない

メーミィ「よくやったわオーガ、そのまま抑えておきなさい！！」

メーミィがゆっくりゴーカイオーに近ずく、その時オーガがゴーカイオーのダリンを回すすると

ゴーカイイエロー「バ～カ～！！」

中央のハッチが開きそこから大砲が出て、そこから砲弾をメーミィに打ちまくる

メーミィ「ふ、不愉快な！！」

するとゴーカイオーはオーガを引き離す

ゴーカイレッド「まずはテメェだ！！」

ゴーカイジャーは達は自分達のレンジャーキーを舵にセットした

ゴーカイジャー「「「「「レンジャーキー！！セット！！レッツゴー！！」」」」」

ゴーカイオーのすべてのハッチが開いた両腕と両足から玉が装填されると大砲から玉が連射して放たれた

ゴーカイスターバースト！！

必殺の「ゴーカイスターバースト」でオーガを倒した

なのは「やった！！まずは一体」

ヴィータ「最後はあのオカマミイラだけだ！」

ゴーカイレッド「なのは、レンジャーキーは変身するだけのモンじゃねぜ」

なのは「えっ！？」

ゴーカイレッド「見せてやるよ、「宇宙最大のお宝」を見つけるのに必要な」

スーパー戦隊の「大いなる力」をな！！

フェイト「スーパー戦隊の・・・」

なのは「・・・大いなる力」

ゴーカイジャーはマジレンジャーのレンジャーキーを舵にセットした

レンジャーキーセット！！

すると両腕からのハッチから翼が出てきて、両足のハッチから鋭い
爪が出てきて

胸のハッチからはドラゴンの顔が出てきた

完成！！マジゴーカイオー！！

これこそ「マジレンジャーの大いなる力」で誕生したマジゴーカイオーである

ヴィータ「ま、マジかよ・・」

シグナム「ど、ドラゴンが」

はやて「出てきた・・・！」

フォワードが非難してる場所では

キャロ「りゅ、龍の顔が胸か出てきた！？」

フリード「きゅくー！？」

キャロとフリードは仰天

メーミィ「それがなんの意味があるのよ！！、ハッ！！」

メーミィは電撃を放ったがマジゴーカイオーは空を飛んだ

フェイト「飛んだ！！」

そして胸の口から炎が放ってメーミィに当たった

メーミィ「アッチチチ！！」

ゴーカイレッド「言って来い！！」

すると翼、爪と顔が一つになり本当のドラゴンがゴーカイオーから
出てきた、これこそ「マジレンジャーの大いなる力」
である「マジドラゴン」である

なのは「ドラゴンになった！！」

はやて「ロボでもなんでもありかいな！」

マジドラゴンはまたメーミィに火を吐きそして噛み付いたそれから
またマジゴーカイオーになった

メーミィ「おのれ～！！、この我を・・」

ゴーカイレッド「トドメだ！！」

レッツゴー！！

ゴーカイマジバインド！！

ふたたびマジドラゴンが分離しメーミィに魔法陣を放ちそしてすさまじいエネルギーば放たれそしてマジドラゴンが戻り

メーミィ「我が敗れるとはあの忌々しい「魔法使い」ども「力」で倒されるとは・・・」

不愉快！！！

ドッガー！！！

メーミィ倒され爆発した

なのは「これがスーパー戦隊の大いなる力・・・」

なのははその力に呆然であった

スカリエッティのアジト

スカリエッティ「まさかあの様な巨大兵器を持っているとは！！」

???「落ち着けスカリエッティよ」

???がなだめる

スカリエッティ「何を言ってるのかね、驚くのあの力だよ素晴らしい!!!!」

大いなる力のことである

???「アレが憎きスーパー戦隊の大いなる力だ」

スカリエッティ「もっとあるのかいあの力が!!さらに素晴らしい!!、それに君のあの力もだ」

???「これは私の体に宿るスーパー戦隊に倒された者達の無限の恨みの力で巨大化させてものだ」

スカリエッティ「恨みか・・それはすごい！！」

???「今回は敗れたがお前は欲しい物が手に入ったな」

スカリエッティ「それはどうも、やはり君は最高の同志だよ」

???「何を今更、お前と私はとっくに同志ではないか」

ハハハハハ！！

アジトに不気味な笑い声が響く

つづく

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n5103y/

海賊戦隊ゴーカイジャー　StrikerSで派手に行くぜ

2011年12月23日02時47分発行